



地域歴史文化の担い手と地域歴史遺産(第1部報告)

村井, 良介

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 9:5-6

(Issue Date)

2011-01-30

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002694>



第9回 歴史文化をめぐる地域連携協議会 地域歴史文化を担う人材像を考える
地域歴史文化の担い手と地域歴史遺産

2011. 1. 30 村井良介

1. 特別研究の目指す“人材育成”の射程

○特別研究

「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」

- ・地域連携事業の場を学生の教育フィールドとして利用するとともに、地域歴史文化を次世代へ継承するため、社会人も含めた体系的な人材教育をおこなう。



試行プログラムの様子

○「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の試み

- ・試行プログラムの実施

2010年12月18日・19日 姫路市香寺町

「地域歴史遺産とまちづくり」(2時間)…概論

「今を伝える歴史資料」(1時間)…現代資料論

「古文書基礎講座」(2時間)…古文書の扱い方・目録の取り方・くずし字の初歩

「地域社会の成り立ち」(計2時間15分)

現代における地域社会の成り立ち(45分) / 古代の里と村(30分) / 中世の荘園と村(30分) / 近世の地域社会(30分)

「災害から地域史料を守る」(1時間30分)…水濡れ史料吸水乾燥ワークショップ

- ・講座の目標

- ・一般の市民、学校の教員、歴史系の専門職ではない自治体職員を対象
- ・通史やトピック・エピソードではなく、活用に向けて必要な学習に重点
- ・参加者相互の交流

- ・講座終了後の意見交換会とアンケートから

- ・「この講座を受講した経験を、今後何かに役立てることができると感じますか？」
→できると思う 12名(回答者全員)

まちづくり活動/地域活動で実践する/地域の住民に伝える/村史・大字誌の編集/災害時の史料の取り扱い(自治体職員)/授業・総合的な学習の時間(中学校・小学校教員)/資料館や博物館に行ったとき文書が読めると楽しい

- ・「活用」への関心、応用的な講座の要請

→香寺町史や福崎町立神崎郡歴史民俗資料館のこれまでの取り組みの効果も

2. 地域歴史文化を担う人材像と“人材育成”

○人材像の多様性

研究者・学芸員・歴史系専門職の自治体職員など職業的な専門家/郷土史家/学校の教員/積極的にまちづくりに取り組む地域リーダー/歴史系の専門職ではない自治体職員/地域のまちづくり活動などに参加する人/歴史文化に興味のある人/自分自身は関心がなくとも、誰かにとって大事なものであるかもしれないという想像力を持つ

る人…など

- ①地域歴史文化に一定の関心を持つ人
 - ②地域歴史遺産を「まちづくり」などに積極的に活用する地域リーダー
 - ③地域歴史遺産の保全・活用についての専門的知識・能力を持つ人
- ※以上は便宜的な指標であり、現実にはそれぞれに幅があって多様に存在
→複合・共同する地域歴史遺産という「場」

○人材の“育成”

- ・①の層が広く厚く存在することが基礎
→一朝一夕に達成されるものではなく、地道に理解を広げていくしかない
(これまで地域連携センターの活動で意識されてきたこと)
日常的な活動のなかで育まれていくもの(広義の育成)
 - ・活用を思い立つ人が出てきやすい、思い立った人が活動しやすい環境の整備
 - ・地域歴史遺産の保全・利用促進(目録整備、レファレンスの充実など)
 - ・学びの場の提供(「まちづくり地域歴史遺産活用講座」など)
 - ・「場」の形成・提供・紹介(人のつながり、ネットワーク)
- ※学生教育は①～③を含む

3. 地域歴史遺産の特性と担い手

○阪神・淡路大震災の経験から

史料は災害そのものの被害によって失われるだけではない
→人々の関心のあり方・認識の変化が、史料を失わせる要因となりうる

○地域歴史遺産の特質

地域歴史遺産…従来の文化財(指定文化財を中心とする)とは異なる概念
あらゆるものが地域歴史遺産となる可能性を持つ
史料(資料)の意味(価値)は、それが置かれた文脈による
→どういう関心に基づいて見られるか、どういう文脈に規定されてあるかにより、意味(価値)は多様に出現
→地域歴史遺産は地域の人々の関心とともにある(人々の関心が地域歴史遺産を「発見する」)
逆に広く人々が関心を持たなければ多くの地域歴史遺産(になりえたもの)は失われる
→保全と活用(誰かが関心を持つこと、誰かにとって大事なものであることを含む)は一体

○新たな地域社会認識をはぐくむ

- ・地域歴史遺産はどのような関心・文脈の下にあるかによって多様である
 - 地域の歴史は、関心・文脈によって多様
 - 地域の切り取り方自体、関心・文脈によって多様
- 自治体史や市民講座で地域の歴史を描くだけでは完結しない
多様な関心の掘り起こし(広義の育成)
→新たな地域社会認識へ